

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月11日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム 太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町字客山72-1 (電話) 0852-21-5227		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月1日	評価確定日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(平成21年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常11人, 非常勤0人, 常勤換算	9,75 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋2階建て	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(7月23日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85,9 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目のグループホームである。入居者の重度化が進んでいるが、一人ひとりの希望や要望に対応するため、職員数を厚くし、利用者の「毎日笑顔が見られる」支援に取り組んでいる。職員は20歳代から50歳代までバランスよい構成になっており、ケアを通して「何でも言える・聴ける」関係のチームワークができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	①「地域向けの広報紙の発行」②「同業者との交流を通じた向上」③「チームで作る利用者本位の介護計画」④「日常的な外出支援」等は改善に取り組んだ。残りの課題については継続検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で手わけをして記入されたものを管理者がまとめた。職員は自己評価票を通して記入することで、日頃のケアの振り返りになった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者全員、職員も多く参加し、支援センター職員、民生委員、駐在所等幅広い構成メンバーの参加で開催している。ホームの報告・諸行事等を話し合い検討されて確実に運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「太陽の里」便りを利用者の日常生活の様子や認知症の記事等を載せたりして年4回配布している。家族はいつでも面会にきているのでコミュニケーションは取れており、気兼ねなく話せる関係ができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や祭り等に参加している。地域向け広報紙も公民館に置き、ボランティアの訪問も多く、協力・応援の関係も築かれ地域との交流は積極的におこなわれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、地域密着型事業所としての独自の理念を作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室に掲示され朝礼時に音読したり、「連絡ノート」を活用したりして理念を確認し日々のケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の清掃作業や夏祭りなど、積極的に参加し交流している。今年度はホーム広報紙を発行し公民館にも配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で分担を決め、日々のケアを振り返り、話し合い管理者がまとめた。職員は評価を会議で検討して改善点や課題について取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催している。利用者全員、家族、職員、民生委員、公民館館長、駐在所等多彩なメンバーである。自己紹介や諸行事、オレオレ詐欺、最近の話題等交流しながら意見交換し運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム事業者連絡会に参加したり、市町村の担当者と積極的に交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、電話や家族だよりなどを通して、ホームでの暮らしぶりや健康状態等の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議、アンケート、定期的な話し合いの場など、積極的に意見を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は馴染みの関係を大切にしたい支援を心がけている。管理者も異動に配慮している。家族へは、「太陽の里便り」で職員の異動や紹介をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て職員の段階に応じた研修を実施している。ホーム独自のミニ学習会や外部研修の伝達など職員の育成に取り組んでいる。資格取得の支援も積極的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員はグループホーム事業者連絡会に参加し、交流や勉強会を行ないサービス向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くが併設のデイサービス利用者であり馴染みながらの開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームで出来た野菜を一緒に収穫したり、梅干の作り方、料理の仕方や味付けなど教えてもらったり、感謝の声を掛けて貰ったり共に支え合う関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者一人ひとりに合わせた声掛けをしている。困難な場合は寄り添ってゆっくりと時間をかけ、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が利用者や家族の要望を聞き、職員と話し合いながら介護計画を作成しているが、日々実行されているケア内容がプランに上がっていないものがある。	○	ケアプランに具体的なケアあがるようにしていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回の部会で見直しをしている。また期間以外に利用者に変化が生じた場合は、その都度見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連携し必要な医療機関への受診や通院の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医で受診できるように支援している。また「受診ノート」や「連絡ノート」を活用し医師との連携に役立っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りを体験した。看取りの指針も作り家族に説明、同意を得ている。職員間での十分な話し合いはこれからである。	○	共有に向けて話し合いを進められることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事や排泄などの時は特に注意して、自尊心を傷つけないようさりげない声掛けや誘導を心がけて支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日々が楽しい日になるよう利用者のペースで過ごせることを大切に支援している。誕生日には、「希望をかなえる日」とし利用者の要望の実現に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、盛り付け、茶碗拭き等、利用者の力を引き出しながら一緒にしている。利用者は職員とかぼちゃの煮方や味付け等の話をしながら楽しんで食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じていつでも入浴できる。入浴嫌いな方には、タイミングを見て工夫しながら対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な事や趣味を活かした場面を作り支援している。昔、そば屋をしていた方を主役に、そば打ちをして食事会を楽しんだ。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に近くの花屋やお店と一緒に行ったり、ホームの回りを散歩したり、一人ひとりの希望する所に行けるよう支援し、外に出る機会を多くしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠している。利用者の行動パターンを把握して対応し、行動制限するような声掛けにならないよう注意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者全員が参加し消防署との防災訓練を実施した。大庭地区福祉医療サービス事業所や地域との防災協定も締結し連絡会を行っている。備蓄についても出来る事から始めた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が把握され記録されている。利用者の状態によりミキサー食、きざみ食など一人ひとり状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間の中央には畳の間があり、周囲の廊下にはベンチやソファが置かれ、好きなどころでゆったりと過ごしている。月毎に利用者全員で作った季節のカレンダー等が飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類が置かれ、壁に手作りの作品や孫の写真が飾られている。利用者が書かれた日記帳、スケッチブック等もあり、居心地の良い居室作りをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。